

実践報告 (Report)

## 保育場面におけるテレビ視聴活用の試み

——保育園児のテレビ視聴に関する実態調査と3歳児クラスの実践——

### One try to utilize TV-viewing for child care: Survey results for the TV-viewing of nursery school children and a practice in 3-year old class

近藤 早苗\*・升田 結美\*\*・竹内 公子\*\*\*・石橋 尚子\*\*\*\*

KONDO, Sanae\*

MASUDA, Yuimi\*\*

TAKEUCHI, Kimiko\*\*\*

ISHIBASHI, Naoko\*\*\*\*

## 摘 要

本研究の目的は、テレビ視聴を保育に活用する方法を探ることであり、まず保護者を対象とした保育園児のテレビ視聴に関する実態調査を行い、その結果を踏まえて、3歳児・4歳児・5歳児の3学年での保育実践を試みた。本論ではその中から、園児のテレビ視聴に関する実態調査結果と3歳児クラスにおける保育実践の試みについて報告する。テレビ視聴に関する実態調査からは、子守代わりに視聴させている家庭が多く、親子視聴には至っていないことが問題点として浮かび上がった。そこで3歳児クラス実践では、園児と保育士との共同視聴に重点を置いた実践を試み、その教育的効果が見えてきた。また実践を通して、日常の保育活動における園児と保育士との関係性が見直されたことも成果であった。

**キーワード：**テレビ視聴、保育園児、3歳児クラス、テレビ視聴を活かした保育実践

**Key words：**TV-viewing, nursery school children, 3-year old class, practice of the utilize TV-viewing for child care

## 1. 研究の流れと目的

本論は、平成23年度第43回愛知県幼児視聴覚教育研究大会（名古屋大会）で発表公開した原稿に加筆訂正したものの一部である。本大会は、愛知県幼児視聴覚研究会、愛知県視聴覚研究協議会並びにNHK名古屋放送局が主催・開催するもので、愛知県幼児視聴覚研究会から委託された県内の1園（幼稚園や保育園）が、Eテレ（NHE教育番組）の保育場面への活用を目的とした保育実践を試み、研究保育や研究発表の形で公開するものである。

今回、昭和保育園は、研究委託園（以後研究園と略す）の中途変更という緊急事態に應える形で、県大会開催までわずかな期間を残す中での研究園となった。そのため、名古屋市公立保育園並びに民間保育園の園長で構成される研究委員会の指導を受けつつ、さらに指導・助言者として椋山女学園大学教育学部の石橋を加え、短期間で

\* 昭和保育園主任保育士、\*\* 昭和保育園3歳児クラス担任、\*\*\* 昭和保育園園長、\*\*\*\* 椋山女学園大学教育学部／椋山女学園大学附属幼稚園 園長  
椋山女学園大学教育学部紀要、投稿・執筆規程の2により査読を行った（2015年12月28日受付；2016年1月12日受理）。

の研究の進展・発表を目指すこととなったのである。

研究園を受諾したものの、昭和保育園では日常的にTV視聴を行ってきてはいなかった。そこで、「テレビ視聴をどのように保育に取り入れるか」についての話し合いを繰り返し行うとともに、大会テーマを設定することから始めた。大会のテーマは「生き生きと輝け、かけがえのないいのち—環境保育を通して—」であり、昭和保育園の保育目標の一つである「命を大切にすると育てる」から決定した。昭和保育園では、平成17年から環境保育に取り組み、どんな小さなものにも命があり、大切に守り育てていくことの重要性を子ども達に伝えてきた。今回はその保育目標を、テレビ視聴を活かした保育実践の中で実現できないか、と構想した。そしてまず、保護者を対象とした「園児のテレビ視聴に関する実態調査」を行い、園児のテレビ視聴状況の把握に努めた。次にその結果を踏まえて、3歳児・4歳児・5歳児の3学年それぞれの保育実践のねらいを、大会テーマを視野に入れて設定した。それらのねらいを達成するためのEテレ番組の選択を経て、テレビ視聴を取り入れた保育実践が試行錯誤の中で試みられた。

本論ではその中から、園児のテレビ視聴に関する実態調査結果と3歳児クラスにおける保育実践の試みについて報告し、4歳児クラスと5歳児クラスにおける保育実践の試みについては、次号での報告としたい。これらの報告を通して、園内でのテレビ視聴が、朝や夕刻時間の子守の利用であったり、降園時のバス待ち時間の穴埋め利用に留まるものではなく、保育の内容や質を高める保育教材として位置づけられる可能性を有するものであることを明らかにしたい。そしてその視聴方法の一端を保護者にも発信し、家庭における乳幼児のテレビ視聴にも活かされることを願っている。

## 2. 園児のテレビ視聴に関する実態把握

### (1) 調査目的と方法

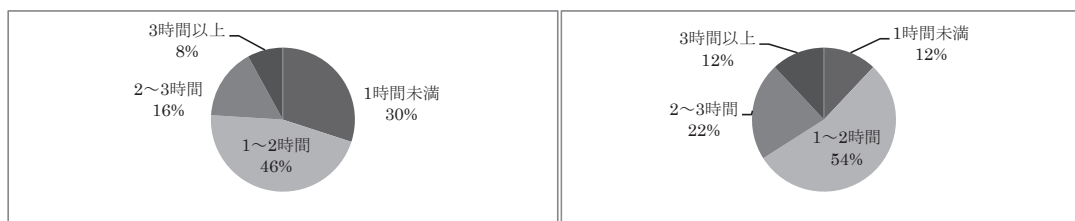
昭和保育園の園児121名（0歳児クラス5名；1歳児クラス17名；2歳児クラス21名；3歳児クラス21名；4歳児クラス32名；5歳児クラス25名）の保護者を対象に、家庭における園児のテレビ視聴状況を把握するためのアンケート調査への協力を求めた。尚、きょうだいで在園している保護者に対しては、園児数分の回答を求めた。よって、配布数は121。有効回答数は105で、回答率は86.8%であった。分析にあたっては、乳児（0・1・2歳児クラス：計43名、有効回答数39：回答率90.7%）と幼児（3・4・5歳児クラス：計78名、有効回答数66：回答率84.6%）の2群間で検討した。

アンケート調査項目並びに回答結果は、次頁に示す通りである。

## 保護者を対象とする園児のテレビ視聴に関する実態調査結果

乳 児 (0・1・2 歳児)	幼 児 (3・4・5 歳児)
----------------	----------------

## ◎一日のテレビ視聴時間はどのくらいですか？



## ◎テレビを見る時間帯はいつですか？ また、その理由は？

朝 48%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園に行く前の時間にちょうど良い</li> <li>・家事の間、静かだから</li> <li>・目覚めが良いから</li> <li>・登園時の車中で見る</li> </ul>	朝 36%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の支度で、親がバタバタしているから</li> <li>・好きな番組がやっているから</li> <li>・時計代わりに時間が分かるから</li> <li>・静かにしてくれるから</li> <li>・兄弟、姉妹が見ているから</li> </ul>
夕 52%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食の支度をするから</li> <li>・帰宅後にちょうど子ども向けの番組がやっているから</li> <li>・兄弟、姉妹が見ているから</li> <li>・眠る前に、リラックスのため</li> </ul>	夕 64%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食の準備の時おとなしいから</li> <li>・夕方は、家事に追われるから</li> <li>・好きな番組がやっているから</li> <li>・テレビが常に点いているから</li> </ul>

## ◎どんな番組を見ますか？

1位 おかあさんといっしょ 2位 いないないばあっ！ サザエさん 4位 みいつけた！ 5位 アンパンマン 6位 ゴーカイジャー 7位 ドラえもん 仮面ライダー はなかつぱ にほんごであそぼ 他 バラエティー VS 嵐 おためしか TORE	1位 おかあさんといっしょ みいつけた！ 3位 ドラえもん 4位 プリキュア ポケットモンスター 6位 ピタゴラスイッチ シャキーン！ 8位 クッキングアイドルマイ！マイ！まいん！ 9位 アンパンマン 他 にほんごであそぼ 忍たま乱太郎 サザエさん VS 嵐 ちびまる子ちゃん ドラゴンボール 等
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ◎誰と見ていますか？



乳 児（０・１・２歳児）	幼 児 幼 児（３・４・５歳児）
--------------	------------------

◎E テレを見ますか？



◎E テレのどんな番組をみますか？(意見の多い順に表記)

・ おかあさんといっしょ	・ いないいないばあっ！	・ おかあさんといっしょ	・ みいつけた！
・ みいつけた！	・ ピタゴラスイッチ	・ ピタゴラスイッチ	・ はなかっぱ
・ にほんごであそぼ	・ はなかっぱ	・ クッキングアイドル	・ にほんごであそぼ
・ シャキーン！	・ 忍たま乱太郎	・ マイ！マイ！まいん！	・ いないいないばあっ！
・ えいごであそぼ	・ おさるのジョージ	・ つくってあそぼ	・ 忍たま乱太郎

◎E テレを視る理由は？(意見の多い順に表記)

・ 好きだから	・ 歌って踊れる	・ 時間帯（家事）が合う	・ 本人が好きだから
・ 時間帯が合う	・ 年齢にあっている	・ 安心して視せられる	・ 年齢にあっているから
・ 習慣になっている	・ 季節感がある	・ 一緒に歌って踊れる	・ キャラがかわいい
・ 集中してくれる	・ 家事が捗る	・ 目覚めが良い	・ 教育のため
・ キャラクターが好き		・ つけているだけで見ていない	

◎E テレ視聴後、内容について家庭で話す事がありますか？

・ 一緒に、歌ったり踊ったりする	・ こういう事は「良いこと、悪いこと」と話をする
・ 動物や昆虫について話す（興味が出てきた）	・ 体操や歌を覚え一緒に歌ったりする
・ 簡単な感想を聞いたり、話しかけたりする	・ 「これは何？」などの質問に答える

◎E テレに希望すること(意見の多い順に表記)

・ E テレならではの番組を作って、質を維持してほしい	・ 楽しく学べ、安心して視聴できる番組を作ってほしい
・ 手遊びや生活習慣を身に付けられる内容を増やしてほしい	・ 英語に興味を持てる番組を作ってほしい
・ 保育園児にもみられる時間に放送してほしい	・ 英語のテロップを出してほしい
・ 子どもには分かりにくい表現や会話が多いのでやめてほしい	・ 再放送が多いので新しいプログラムを期待したい
・ 高校野球等で時間が変わるのは困る	・ 動物の生態関連の番組をタ方に放送してほしい
・ 歌と振付（体操含む）が難しい。簡単で誰でも歌えて踊れるものにしてほしい	・ もう少し遅い時間に子ども向けの番組を放送してほしい
	・ 被り物などのキャラクターが多すぎる
	・ 道徳心が学べる番組を希望する

## (2) 結果と考察

今回のアンケート調査結果から、以下のような園児のテレビ視聴に関する実態を捉えることができた。

①視聴時間については、乳児・幼児ともに１～２時間程度（乳児76％；幼児66％）

で問題ないと思うが、3時間以上がすでに1割程度（乳児8%；幼児12%）存在していることに留意したい。

②視聴時間帯は、乳児・幼児ともに、朝の登園前の準備時間帯と夕食の準備時間帯に集中していた。家事で忙しい間の子守代わりに視聴させている家庭が多い。また、きょうだいで視聴や車中で視聴することも多いようで、親がそばに居たとしてもテレビ視聴に集中している様子ではなく、親子視聴には至っていないようである。

③視聴番組としては、乳児・幼児ともに「おかあさんといっしょ」が第1位であった。「みいつけた！（幼児1位・乳児4位）」「いないいないばあ！（幼児2位）」が上位に入り、他にも「にほんごであそぼ」「ピタゴラスイッチ」などEテレの子ども向け番組が挙げられていて、Eテレの視聴率の高さが伺われた。

④Eテレの視聴に関する質問項目への回答からは、Eテレを好んで視聴している家庭が多い（「毎日見ている」乳児57%；幼児74%）こと。③の結果と同様に、「おかあさんといっしょ」を筆頭に、数多くの番組が視聴されていること。「内容をより良くしてほしい」との期待が大きいことがわかった。

⑤Eテレの番組とは言えども、「子どもには分かりにくい表現や会話が早い」との指摘もあり、内容を十全に理解するためには親子での視聴が望まれる。親子視聴により、視聴中並びに視聴後に「一緒に歌ったり踊ったりする」「簡単な感想を聞いたり、話しかけたりする」「こういう事は『良いこと、悪いこと』と話をする」「『これは何？』などの質問に答える」といった番組への主体的なかわりが可能となるものと考えられる。

⑥しかし、②で述べたように親子視聴は充分にはなされていないようである。親子視聴の推進を課題の一つとして受け止めたい。

### 3. 3歳児クラスでの保育実践—みんなで遊ぶ楽しさ「みいつけた！」—

次頁から5頁にわたって、3歳児クラスにおける保育実践結果を掲載した。

本実践においては、まず3歳児クラスの現状把握（1頁目の最初の□の枠内）が行われ、そこから「一人遊びが主流で、友達との関わりがうまく持てない子ども達に、もっと友達との関わりを持つ機会をつくってあげたい（1頁目の□の下雲状の枠内）」という担任保育士の願いが引き出された。そしてその友達との関わりを持つ機会を、Eテレ番組「みいつけた！」の共同視聴に求めることとした。「みいつけた！」は、前述したように、幼児の視聴第1位の人気番組であり、幼児の発達特性と保育内容5領域を視野に入れた多面的な番組づくりが行われているそうである。このような「みいつけた！」を繰り返し共同視聴することで、「友達と一緒にいる喜び、一緒に遊べる感動を共有する」という本保育実践のねらいに迫ろうと考えたのである。かつまた、園児と保育者の共同視聴にも重点を置き、大人が共にテレビ視聴することの意義を確認したいと考えた。

### 3歳児の実践報告：みんなで遊ぶ楽しさ「みいつけた！」

#### <クラス紹介>さくら組：男児9名 女児12名 計21名

年少組になり新しい生活、環境の中で不安と緊張のスタートだった。2歳児の時から一緒に生活してきた友達の中に、新入園児が5名仲間入り。なかなか馴染めず不安な表情の子もいたが、少しずつ周りの友達と関わりがもてるようになり、次第に友達同士誘い合う姿が見られるようになってきた。戦いごっこやダンスが大好きなクラス。



一人遊びが主流で、友達との関わりがうまく持てない子ども達・・・言葉で自分の思いを伝えられるようになり、様々な言葉のトラブルや要求のぶつかり合いを経験する中で徐々に気の合う友達を見つけられるようになってきた。「友達と遊ぶと嬉しい、楽しい」という気持ちが少しずつ芽生え始めたこの時期だからこそ、もっと友達との関わりを持つ機会をつくってあげたい。

#### 「みいつけた！」をみんなで視聴しよう

教育テレビ 月～金 午前7：46～8：01

(再) 月～金 午後5：00～5：15

「みいつけた！」は、幼稚園教育要領の5領域「健康・人間関係・環境・言葉・表現」を意識し、子どもたちの発育をバランスよく後押しできるよう構成している。「友達と遊ぶ楽しさ」「いのちの不思議」「自分でできる喜び」「相手を思いやる気持ち」など、子どもたちが様々な「発見」を通して楽しむことができる。



思ったことや感じたことを友達同士で共感できるようになってほしい



家庭では味わうことのできない、「大好きな友達と、みんなで遊べる」園ならではの経験を通して、友達との関わりを深めてほしい

#### <ねらい>

「友達と一緒にいる喜び、一緒に遊べる感動を共有する」



## 事例① 一人の声がみんなの遊びに

「みいつけた！」を繰り返し視聴していくにつれ、番組に出てくるキャラクター（サボさん、コッシー、スイちゃん）が子ども達にとって身近な存在となる。A児の発した言葉がきっかけとなり、粘土遊びの時間がより楽しいひと時となった。そこから製作活動に繋げ、更に喜びが大きくなり、遊びに発展していった。



A：「せんせい、これみて！サボさんみたいでしょ！」

保：「本当だ！おもしろいね〜！」

A：「もう一個作ろ〜♪」

B：「ぼくも作る！」

C：「コッシー難しいよ」

A：「先生、作ってよ〜！」

A児の姿がきっかけとなり周りにいた子も真似て次々と作り出す。いつもの粘土遊びの時間が“サボさん作り”の時間になっていた。出来上がると大喜びで、友達同士見せ合いながら盛り上がる子ども達。その姿から、キャラクターを作りたい気持ちを読み取り、翌日、コッシー、サボさん、スイちゃんの顔の台紙を用意してあげる事にした。



「あー！これコッシー？」「サボさんもいるよ！」と次々と保育士の周りに集まり興奮状態になる。これから製作することを伝えると「サボさんがいい！」「ぼくコッシー！」とそれぞれ好きなキャラクターを選ぶ子ども達。



どの子も夢中になり、嬉しそうに製作に取り組んでいた。自分だけのオリジナルサボさん、コッシー、スイちゃんに大満足の様子だった。



できあがり〜

コッシーです！

オイ〜ッス！！

サボさんだよ！



キャラクターになりきって遊ぶ事に楽しさを覚え、その日からの遊びの時間は「みいつけたごっこ」がブームになった。

## 事例② みんなで遊ぶと楽しいね

### ＜椅子取りゲーム「すわるそう」視聴＞

椅子取りゲームは馴染みのある遊びであるため、喜んで視聴し、「やりたい」気持ちへと繋がった。

視聴後にはクラスの友達とすぐに遊ぶことができる環境が、子ども達の遊びたい気持ちを思い切り発揮できる場となり、「やりたい」気持ちを実践に移すことができた。



#### ～視聴中～

子：「あー椅子取りゲームだぁ！やったことあるよねえ！」

子：「これ歌える！」

子：「今日やりたーい！」

と、口々にし、一人が立ち上がると周りの子もテレビの曲に合わせて立ったり座ったり・・・参加したい気持ちを抑えきれない様子だった。

視聴後、部屋に戻り椅子取りゲームをする。



やっぱり楽しい椅子取りゲーム♪

大好きな「みいつけた！」や「ぼくコッシー」の曲に合わせて大興奮の子ども達だった。終了後遊び足りなかったD児。「フルーツバスケットもやろう！」の一言に周りにいた子も反応し「みかんがいい！」「いちごがいい！」と期待する。



皆でどんな果物にするか話し合い絵を描いた。それを身に付け、わくわくドキドキのフルーツバスケット。

「〇〇ちゃんのいちご美味しそう！」と絵を見せ合いながら嬉しそうに参加していた。席友達に「ここ！ここ！」と空いている席を必死に教えてあげられる姿も見られるようになった。



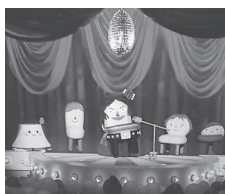
以前製作したキャラクターを発見したF児とG児。「これも付けよう！」と首に掛ける。フルーツバスケットで果物を首に掛けたことを思い出し、「みいつけたバスケットだー！」とひらめいた。

後日、「みいつけたバスケット」も行なった。

「まだ遊びたい」「もっとやりたい」という気持ちの高まりが、一人のつぶやきによって周りの子の気持ちを動かし、影響を与えることで遊びが広がっていった



## ＜エンディング曲「みいつけた！」視聴＞



曲がかかると、体を揺らしたり跳ねたりしながら自然と動く姿が多く見られた。歌詞も覚え、一人が歌い出すと次から次へと口ずさむようになった。そんな子ども達の姿を見て曲に簡単な振り付け、リズムあそびをしたり、プール遊び前の準備運動として普段の保育の中でも取り入れるようにした。



「踊りたい」「やりたい」気持ちがより強くなり、

運動会で行う遊戯に繋がった

## 事例③ 先生も一緒だと、もっと楽しいね

「遊びを通して友達との関わりを深めて欲しい」という気持ちから、遊び中心の内容のものを視聴した。初めて見る遊びに興味を示し、繰り返し遊ぶ楽しさを徐々に見つけ出せるようになった。また、保育士や友達と一緒に遊びに参加できる喜びも感じられるようになった。

### ＜ジェスチャーゲーム視聴＞



#### ～視聴中の様子～

ジェスチャーを当てる場面・・・

- ・思ったままをすぐに口にする
- ・友達が言ったものを真似て言う
- ・一生懸命考える
- ・じっと画面を見つめる

#### ～視聴後の様子～

保：「ジェスチャーゲームどうだった？」  
子：「サボさん面白かった！何してるか分かったよ！」  
子：「コッシーも当ててたよね！」  
子：「先生やってー！」

### ＜ジェスチャーゲーム実践＞

#### 1回目のジェスチャーゲーム

##### ＜保育士が出題者＞

どの子も興味津々で参加していた。「楽しかった」「またやりたい！」気持ちになる。

- ・すぐに動きまわり、他事をし始める
- ・友達の意見を聞けない
- ・自分の思いを言えない

保育士も子どもと一緒に考える

ゲーム後の子どもの姿  
つぶやきの変化

#### 2回目からのジェスチャーゲーム

##### ＜子どもが出題者＞

緊張と戸惑いで、「できるかな・・・」と不安になる気持ちが目立つ。

円になり落ち着いた雰囲気を作ること  
で・「次は〇〇がやりたい！」  
・「〇〇ちゃんと一緒にやりたい」という気持ちが芽生える

## 友達とペアになって行う

- ・「やりたい」気持ちが高まり、楽しさや喜びを感じられるようになった
- ・勇気を出して参加できたことから、自信に繋がっていった
- ・「友達と一緒になら安心」という気持ちが芽生え、無理なく遊びに加われるようになった



## <考察>

- テレビ視聴を通して集団で（友達と関わって）遊ぶことの楽しさを味わい、その後自然に友達同士で誘い合う姿が多くなった。
- ジェスチャーゲームでは子ども達がルールを理解できるようになったことで、繰り返し遊ぶことを楽しめるようになった。「次はこうしよう」と自分達で提案した事が次の遊びに取り入れられると、遊びを発展させる面白さも見つけ出せるようになった。
- 保育士の前や人前に出ることが苦手な子も、テレビの前ではリラックスした状態で友達と笑い合ったり会話が弾む姿が見られ、進んで友達や保育士と関わる事ができるようになった。その姿からテレビ視聴は自分を素直に表現し、人とのコミュニケーションをとりやすくするきっかけにもなる事を実感した。
- 一つの番組の中に様々な内容が組み込まれているため、子ども達の興味が分散してしまった。そのため、視聴後の意見交流ではイメージが変動しやすく、膨らみきれない場面が多くあった。しかし子ども達にとってはキャラクターの存在がとても大きいため、そのキャラクターを通して「やりたい」「やってみよう」という気持ちが芽生え、次の活動に繋がっていった。
- これまでは子ども達が遊びを展開していくのは難しいという概念にとらわれ、保育士が遊びを提供するばかりだった。しかし、子どもの何気ない声に耳を傾け、「やりたい」思いを丁寧に受けとめてあげることで遊びの幅が広がっていくのを感じた。
- 今回の取り組みを通してこれまであまり意識してこなかった“同一体験”の大切さや必要性を実感することができた。3歳児はまだ子どもだけではなく、そこに保育士が存在することの安心感が必要である事、そして保育士も子どもと一緒に経験することの大切さに気付くことができた。今回の研究で留まることなく、今後も必要性に応じてテレビ視聴を取り入れながら、充実した保育ができるようにしていきたいと思う。



## 実践をふり返って

今回の成果は、掲載した3つの事例から読み取ることができよう。

事例①：「一人の声がみんなの喜びに」は、粘土遊びの最中にA児が発した「せんせい、これみて！サボさん（番組キャラクター）みたいでしょ！」の言葉がきっかけとなり、番組キャラクターづくりがクラス全体に広がって行ったものである。「みいつけた！」の共同視聴によって、子ども達の中に番組キャラクターが共有されたことから、共通のイメージを持って制作する喜びと一体感が感じられるようになったものと言えよう。

事例②：「みんなで遊ぶと楽しいね」では、番組中に出てくる「椅子取りゲーム」を見た子ども達が、椅子取りゲーム→フルーツバスケット→みいつけたバスケットへと、自らの発想で遊びを発展させて行った過程が描かれている。また、番組エンディング曲に合わせて身体を動かす子ども達を見た保育士が、エンディング曲に簡単な振り付けをしたことから、種々の場面での身体表現へと展開されていった様子が報告されている。テレビ視聴と保育士の適切な援助が、3歳児の集団遊びや身体表現を促した事例である。

事例③：「先生もいっしょだと、もっと楽しいね」では、番組中に出てくる「ジェスチャーゲーム」が保育の中に取り入れられている。ジェスチャーゲームを主導する出題者の役割が、保育士から子ども達（ベア出題）へと移って行ったことで、子ども達の中に緊張や戸惑いはあったものの、「やりたい」気持ちが高まったり、「友達と一緒になら安心」という気持ちが芽生えたり、勇気を出して参加できたことが自信に繋がって行ったことなど、その効果が見出されている。さらに保育士もジェスチャーの回答者の一員として仲間入りしたことで、場の雰囲気はさらに盛り上がり、遊びの一体感が高められた。「先生もいっしょだと、もっと楽しいね」という子ども達の思いは、幼児のテレビ視聴における大人の役割の重要性を示唆するとともに、この実践を意義あるものとしたと言えよう。

そして最後の「考察」でも述べているように、今回の3歳児クラスへのテレビ視聴導入を通して、以下のような点を再確認した。

①子どもの「やりたい」思いを丁寧に受け止めることで、子ども主導の遊びの広がりが可能となる：3歳児ということで、ついつい保育士から遊びを提案しがちであったが、子どもの何気ない声に耳を傾け、「やりたい」「こうしたい」という思いに気づき支えることで、遊びの幅が広がっていくのを感じた。日常の保育活動における園児と保育士との関係性が見直された。

②人前で緊張しがちな子どもにとって、テレビ視聴が他者とのコミュニケーションの媒介ツールとなる可能性がある：人前に出るのが苦手な子どもも、テレビ視聴中はリラックスした状態で友達と笑い合い、会話が弾む姿が見られた。

③子どもと保育士の「同一体験」が、相互理解を促し保育を充実させる：テレビを視聴している間、子どもと保育士の視線は同じ方向を向いている。同じものを一緒に

見て、感じ、考え、遊び出す、この「同一体験」の大切さや必要性を、担任保育士はこれまであまり意識してこなかったと語っている。それはもしかしたら、今回のように、子どもと保育士がテレビの共同視聴者というまったく同じ立場に立って初めて実感されるものなのかもしれない。保育場面におけるテレビの共同視聴は、保育士に子ども達との「同一体験」を楽しむ「ゆとり」をもたらし、より適切な子ども理解と保育の充実を可能とし得るようである。

#### 4. まとめと今後の課題

今日の保育業界において、日々の保育にテレビ視聴を導入している保育園や幼稚園は少ない。そして導入されている場合には、その教育的効果をねらって利用していると言うよりも、人手が足りない早朝や夕刻保育にDVDをただ見せるだけの「子守的利用」がなされている場合が多く、質の低い保育のイメージが持たれがちである。そのため、保育場面へのテレビ視聴の導入に、アレルギー反応を示す保育者が少くない。

しかし、今回の保育園児のテレビ視聴に関する実態調査と3歳児クラスにおける保育実践の試みを通して、テレビ番組が保育の内容や質を高める保育教材として位置づけられる可能性が見えてきた。さらに、対象年齢を5歳児クラスまで広げ、その有効性を検証していきたい。また、3歳児クラスにおける保育実践では、園児と保育士との共同視聴の重要性が明らかとなった。4歳児クラス、5歳児クラスにおいては、どのような視聴方法がその教育的効果を高めることに寄与できるのであろうか。幼児の発達特性を踏まえ、検討したい。